

NABが示すトレンド

NAB (National Broadcaster Association) は、地上波放送局 (ラジオとTV) を代表する組織である。そのメンバーは放送局を持つ会社で構成されており、番組を配給するネットワークが対象ではない。NABの政策に反対し、4大ネットワーク中のABC、CBS、Foxの3つがNABから脱退していた時期もあった。当然、そのNABの展示会も、地上波放送局向けの製品とサービスが主役である。しかし、放送業界はここ数年で大きく変化をしており、そのトレンドはNABの展示会でも明らかになっている。

デジタル移行がもたらしたもの

これまでのNAB展示会の大きな話題はデジタル移行であった。しかし、2009年に完了したデジタル移行がもたらしたものは、地上波放送局には必ずしもプラスではなかった。デジタル化はコンテンツの再利用を容易にし、インターネットによるTV番組の配信を急速に進め、TV番組はネットワーク自体のWebサイト、それにHulu、Netflix、iTunes等のサービスで配信されるようになってきている。インターネットで配信されるTV番組をスマートフォンで見ることが可能になり、地上波放送デジタル化後の大きなサービスと放送局が期待していたモバイル放送は注目されていない。それどころか、モバイル・ブロードバンドの容量を増やすために放送帯域を減らすことが議論されている。

インターネットでのビデオ配信は、地上波放送局への脅威であり、それが放送業界の大きな話題ではあっても、Netflix等がNABに出展することは場違いである。しかし、このトレンドをNAB、そして地上波放送局として無視することはできない。地上波放送局

にとり、Webサイトの広告は重要な収入になり始めている。Webサイトの利用者を増やすには、地上波放送局もその独自コンテンツのインターネット配信を増やしていく必要がある。地上波放送局もOTT-V (オーバー・ザ・トップ・ビデオ) を提供していく必要がある。

クラウド化とSOA

2011年のNABの製品のトレンドは、クラウド化とサービス指向アーキテクチャー (SOA) の導入であった。どちらもIT業界の大きなトレンドであり、ファイルベース化が進むことで、放送のIT化が進んでいる。NAB 2011では、Microsoftはそのクラウド化プラットフォームのAzureを、IBMはSOAベースのワークフロー技術を売り

込んでいた。これらの技術は、ファイルベース化したビデオコンテンツの処理、管理をさらに容易にすることを目指しており、特にビデオをマルチプラットフォーム環境で提供していくことに貢献をする。

財源的、人材的な資源が少ない地方の放送局にとり、クラウドサービスはコンテンツのマルチプラットフォーム化を進めていくのに重要になっていく。例えば、Encoding.comはクラウド上でのトランスコーディングのサービスを提供しており、1つのフォーマットのビデオをさまざまなデバイスが要求するフォーマットに変換するサービスを提供している。このようなサービスを使うことで、放送局は新しいハードウェアの導入なしで、PC、スマートフォン、コネクテッドTVとさまざまなプラットフォームに対してビデオコンテンツを提供していくことができる。

しかし、マルチプラットフォーム化は、シングルプラットフォームの世界であった地上波放送を大きくと変えるものである。このトレンドにいかに対応していくかは、地上波放送局、そしてNABの大きな課題である。 

The Compassニュース

NSIリサーチは、アメリカのデジタル放送とインターネットTVの動向を伝えるマンスリーレポートのThe Compassを出版しています。The Compassのサンプル購読がご希望であれば、compass@nsirinc.comに会社名、氏名を含めたEメールをお送り下さい。

